

平成25年度

事業報告書

公益財団法人かわさき市民活動センター

平成25年度

## 事業報告

- 1 当法人の現況に関する事項
  - (1) 事業の経過及びその成果
  - (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況
  - (3) 主要な事業内容
  - (4) 重要な契約に関する事項
  - (5) 会員に関する事項
  - (6) 職員に関する事項
  - (7) 役員会等に関する事項
  - (8) 対処すべき課題
- 2 役員等に関する事項
  - (1) 理事
  - (2) 監事
  - (3) 評議員
  - (4) 役員等の報酬

## 事業報告の附属明細書

- 1 役員以外の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況
- 2 事業の実施状況について補足すべき重要な事項【事業の概要】
  - (1) 市民活動推進事業
  - (2) 青少年健全育成事業
  - (3) 法人の運営

# 事業報告

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

## 1 当法人の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及びその成果

事業別【経常収益】	当初予算額(千円)	執行済額(千円)	達成率 %
市民活動推進事業	96,439	89,506	92.81%
青少年健全育成事業	2,746,065	2,745,021	99.96%

### (2) 直前3事業年度の財産及び損益の状況

(単位：千円)

区分	平成22年度 (7~3月期)	平成23年度	平成24年度	平成25年度 (当事業年度)
経常収益	1,778,985	2,808,007	2,838,554	2,868,735
評価損益等調整前 当期経常増減額	△414,159	50,717	17,123	△22,182
当期経常増減額	△414,159	50,717	17,123	△22,182
正味財産期末残高	223,723	275,932	290,709	268,540

注：平成22年度は、公益財団法人の認定に伴う分かち決算です。

### (3) 主要な事業内容

事業	主要な事業の内容
市民活動推進事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 市民活動に関する情報の収集・提供及び啓発事業</li> <li>・ 市民活動に関する調査・研究事業</li> <li>・ 市民活動に関する人材育成及び相談事業</li> <li>・ 市民活動の促進・支援事業</li> <li>・ 関係機関・関係団体等との連携</li> <li>・ その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）</li> </ul>
青少年健全育成事業	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 青少年の健全育成に関する事業</li> <li>・ 青少年施設の管理運営の受託</li> <li>・ 関係機関・関係団体等との連携</li> <li>・ その他目的を達成するために必要な事業（理事会又は評議員会で決議する事業）</li> </ul>

### (4) 重要な契約に関する事項

契約年月日	相手方	契約金額	契約期間	契約の概要
平成25年4月1日	川崎市	合計 2,660,001,043円	H25.4.1から H26.3.31まで	川崎市子ども文化センター指定管理業務の受託に伴う年度協定書

**(5) 会員に関する事項**

種 類	前年度末	当年度末	増 減
賛助会員 (団体)	38団体	39団体	1団体
賛助会員 (個人)	105名	130名	25名

**(6) 職員に関する事項**

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

職名等	氏 名	就任年月日	担当事務	備 考
事務局長	風間 達穂	H22.04.01	事務局の総括	重要な使用人
総務課長	加藤 明男	H22.04.01	課の総括	
市民活動推進課長	入口 茂	H24.04.01	〃	
青少年事業課長	大倉 萬里子	H22.10.01	〃	(参事)
青少年事業課主幹	島 忍	H22.10.01	IRアマネージャーの総括	
その他の職員 (嘱託職員を含む)				313名

**(7) 役員会等に関する事項**

ア 理事会

会議名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第 1 回	平成 25 年 5 月 27 日	議案 1 年度協定書の締結について 2 平成 24 年度事業報告及び決算について 3 平成 25 年度 5 月補正予算について 4 平成 25 年度第 2 回評議員会の開催について 報告 1 平成 24 年度経営改善計画の進捗管理について 2 騒音差止等請求事件の進捗状況について 3 職員の処分について	可決 可決 可決 可決 了承 了承 了承
第 2 回	平成 25 年 11 月 29 日	議案 1 規則の改正について 2 平成 25 年度 11 月補正予算について 3 平成 25 年度第 3 回評議員会の開催について 報告 1 平成 25 年度上半期の事業等の報告について 2 騒音差止等請求事件について 3 職員採用選考及び昇任試験について 4 全市的イベントの実施予定等について	可決 可決 可決 了承 了承 了承 了承
第 3 回	平成 26 年 3 月 11 日	議案 1 規則の改正について 2 経営改善計画について 3 平成 26 年度事業計画について 4 平成 26 年度収支予算について 5 行政庁への事業計画等の提出について 6 平成 26 年度第 1 回評議員会の開催について 報告 1 行政庁の立入検査の実施結果について 3 職員採用選考及び昇任試験について 4 全市的イベントの実施結果について	可決 可決 可決 可決 可決 可決 了承 了承 了承

イ 評議員会

会議名	開催年月日	議 事 事 項	会議の結果
第 1 回	平成 25 年 4 月 22 日	報告 1 規則の改正について 2 平成 24 年度 3 月補正予算について 3 平成 25 年度事業計画について 4 平成 25 年度予算について 5 騒音差止等請求事件の進捗状況について 6 全市的イベントの実施結果について 7 役員賠償責任保険への加入について	了承 了承 了承 了承 了承 了承 了承
第 2 回	平成 25 年 6 月 11 日 (定時評議員会)	議案 1 平成 24 年度事業報告及び決算について 報告 1 年度協定書の締結について 2 平成 25 年度 5 月補正予算について 3 平成 24 年度経営改善計画の進捗管理について 4 騒音差止等請求事件の進捗状況について 5 職員の処分について	可決 了承 了承 了承 了承 了承
第 3 回	平成 25 年 12 月 9 日	報告 1 規則の改正について 2 平成 25 年度 11 月補正予算について 3 平成 25 年度上半期の事業等の報告について 4 騒音差止等請求事件について 5 職員採用選考及び昇任試験について 6 全市的イベントの実施予定等について	了承 了承 了承 了承 了承 了承

(8) 対処すべき課題

平成 22 年 9 月に提起された訴訟「騒音差止等請求事件」について

〔原 告〕 省略

〔被 告〕 川崎市、公益財団法人かわさき市民活動センター

〔裁判所〕 横浜地方裁判所川崎支部

当財団では、顧問弁護士を訴訟代理人に委任し、本事件に対応しましたが、弁論準備期日、口頭弁論及び和解期日を経て、平成 25 年 7 月 2 日に和解が成立した。

## 2 役員等に関する事項

(平成 26 年 3 月 31 日現在)

### (1) 理事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
代表理事 (理事長)	小倉 敬子	H24.6.8 から H26.6 定時評 議員会まで	常勤	有	LET'S 国際ボランティア交流会 代表
副理事長	大下 勝巳	〃	非常勤	〃	特定非営利活動法人 かわさき創造プロジェクト代表
副理事長	福田 武雄	〃	〃	〃	
代表理事 (常務理事)	太田 直	〃	常勤	〃	
理事	飯田 嘉徳	〃	非常勤	〃	
〃	石井 康昭	〃	〃	〃	
〃	小原 良	〃	〃	〃	川崎市 P T A 連絡協議会会長
〃	金井 則夫	〃	〃	〃	公益財団法人 川崎市生涯学習財団理事長
〃	鈴木 眞智子	〃	〃	〃	
〃	難波 一尚	〃	〃	〃	公益財団法人 横浜市老人クラブ連合会理事長

### (2) 監事

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
監事	宮 洋世紀	H24.6.8 から H26.6 定時評 議員会まで	非常勤	有	
〃	小菅 猛	〃	〃	〃	

### (3) 評議員

役職名	氏名	任期	常勤・非常勤	報酬	他の法人等の代表状況等
評議員	岡村 修	H22.7.1 から H26.6 定時評 議員会まで	非常勤	有	
〃	齊藤 準	〃	〃	〃	
〃	三枝 博男	〃	〃	〃	
〃	佐藤 知久	〃	〃	〃	

"	菅原 陽子	"	"	"	
"	竹井 齋	"	"	"	特定非営利活動法人 アクト川崎理事長
"	仁藤 公子	"	"	"	
"	東田 乗治	"	"	"	
"	前田 成東	"	"	"	

**(4) 役員等の報酬**

区 分	人 数	報酬の総額	備 考
理 事	10名	6, 140千円	(常勤及び非常勤)
監 事	2名	88千円	(非常勤)
評議員	9名	192千円	(非常勤)
合 計	21名	6, 420千円	

注1：理事、監事及び評議員の報酬額は、平成22年7月1日開催の評議員会において了承された「役員及び評議員の報酬並びに費用に関する規則」において定められている。

2：評議員の報酬の限度額は、「定款」第15条において、毎年度総額30万円を超えないものとされている。





**事業報告の附属明細書**  
(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

**1 役員その他の法人等の業務執行理事等との重要な兼職の状況**

区分	氏名	兼職先法人名	兼職の内容
理事	金井 則夫	公益財団法人川崎市生涯学習財団	理事長
	難波 一尚	公益財団法人横浜市老人クラブ連合会	理事長

**2 事業の実施状況について補足すべき重要な事項【事業の概要】**

**(1) 市民活動推進事業**

**ア 会議室・フリースペース等管理運営事業**

平成25年度の利用登録団体数は、新規28団体、計634団体で、会議室・印刷室・フリースペース・パソコン等の施設・設備の利用状況は、次のとおりです。

施設・設備名	24年度	25年度
会議室 A	延べ 551 団体、5,878 人	延べ 523 団体、5,865 人
会議室 B	延べ 364 団体、3,225 人	延べ 354 団体、3,268 人
印刷機	延べ 486 団体、1,020 人	延べ 482 団体
フリースペース	延べ 3,025 団体、14,263 人	延べ 3,148 団体、14,775 人
パソコン (全 2 台)	延べ 422 団体、686 人	延べ 395 団体、645 人
ロッカー・大 (全 72 台)	71 台	72 台
ロッカー・小 (全 9 台)	8 台	8 台
レターケース (全 57 台)	32 台	32 台
市民活動ブース 1		H25.5 (特非) かわさきマンション 管理組合ネットワーク
市民活動ブース 2	(特非) グローイン・グランマ	同左
市民活動ブース 3	(特非) さえの会	H25.9 (特非) さえの会 H26.1 (特非) 川崎市精神障 害者連絡会
市民活動ブース 4	(特非) ニッポン・アクティブライフ・ク ラブ川崎拠点 (ナルク川崎)	同左
市民活動ブース 5	①持続可能な地域交通を考える会 ②川崎の交通とまちづくりを考える会 ③川崎フューチャーネットワーク	同左

## イ 情報提供・啓発事業

### (ア) 情報誌「ナンバーゼロ」の発行

ボランティア・市民活動に関する様々な情報を提供するため、毎月 10,000 部（1・4 面フルカラー、2・3 面モノクロ）発行し、市内公共機関、関係団体及び賛助会員に配布しました。また、視覚障害の方にも情報を提供するため、各月号の音声テープを作成し、市内希望者等に当該団体等を通じて配布しました。

### (イ) ボランティア・市民活動募集冊子の発行

ボランティア・市民活動に参加したいという市民向けに、市内活動団体のボランティア募集情報を満載した小冊子「ボラナビ」を、川崎市社会福祉協議会と共同で 5,000 部発行し、市内関係機関・団体、小・中・高等学校等に配布しました。

なお、表紙デザインについては、川崎市立川崎総合科学高等学校デザイン科 3 年生 門脇京花さんにご協力をいただきました。

### (ウ) 神奈川新聞紙面へのコラム連載

ボランティア・市民活動の人材育成（情報発信力の向上）の一環として、公募した市民記者の取材・執筆によるボランティア・市民活動等に関する様々な情報を、神奈川新聞社の協力を得て、同紙の土曜版に「市民発 地域をつくる人・活動」と題した記事を連載しています。

### (エ) ホームページ・ポータルサイト等の運営

- ① 市民活動推進課のホームページについては、適宜更新を行い、月平均 4,500 件を超えるアクセスがありました。
- ② ポータルサイト「応援ナビかわさき」については、イベント・講座、ボランティア募集、団体詳細、民間助成金等の最新情報を迅速に掲載するとともに、コンテンツの充実に努めました。月平均 2,700 件を超えるアクセスがありました。
- ③ 新着情報などをまとめたメールマガジンをメルマガ会員（156 会員）あてに毎月発行しました。

## ウ 調査・研究事業

全市域・全領域の中間支援組織としての活動団体の基礎的データの蓄積及び状況把握と、今後の市民活動推進事業等検討に活用するため、市民活動実態調査を実施しました。

併せて、かわさき市民公益活動助成金交付団体のその後の状況の調査も実施しました。

調査対象団体数	
センター登録団体	636 団体
センター把握団体	194 団体
市内 N P O 法人	330 団体
助成金交付団体	252 団体
合計	1,226 団体

## エ 交流促進事業

### (ア) かわさきボランティア・市民活動フェア（ごえん楽市）の開催

平成 26 年 1 月 25 日（土）、中原市民館及びかわさき市民活動センターにおいて、「かわさきボランティア・市民活動フェア（ごえん楽市）」を開催しました。

今年度からは、市民活動センター単独での開催となりました。中原ミュージカルのオープニング演奏を皮切りに、パネル展示（50 団体）、企画展示（24 団体）、フリーマーケット（4 団体）、野菜販売、震災関連写真展示、地域作業所展示販売など、延べ 1,700 人の参加がありました。

### (イ) 市民活動交流会（ごえんカフェ）の開催

昨年度に引き続き、分野を超えた交流・連携等を目的に、市民活動交流会（ごえんカフェ）を平成 25 年 10 月 25 日（金）に開催し、73 名の参加がありました。

## オ 研修・相談事業

### (ア) ボランティア・市民活動入門講座の開催

昨年度に引き続き「チャレボラ 2013」（7月20日から8月22日まで）を、市・区社会福祉協議会・市公園緑地協会・川崎授産学園との共催で実施しました。

「チャレボラ」は小・中・高校生にボランティア活動を体験学習してもらい、これを主眼として毎年行っているもので、平成25年度は、65プログラムに327名（小学生125名・中学生156名・高校生43名・大学生3名）の参加がありました。

当センターが実施した「体験！かわさきを支えるボランティア」には、計70名の参加者があり、9施設（中原図書館、市民ミュージアム、高津市民館橋分館、川崎市地球温暖化防止活動推進センター、地域子育て支援センター）及び1団体（落書き戦隊ケスンジャー）の協力を得て、様々なボランティア活動を体験してもらいました。

### (イ) 市民活動基礎講座の開催

「市民活動基礎講座」は、これから地域で市民活動を始めたいと考えている市民を対象にした講座で、6月22日から9月14日まで全5回開催し、7名の参加がありました。また、今年度は受講生やボランティアを募集している団体と市民との出会いの場として、「ごえん楽市プチ（夏休み市民活動見本市）」を7月15日に開催し、17団体・40名の参加がありました。

### (ウ) ボランティア・市民活動団体パワーアップセミナーの開催

パワーアップセミナーは、組織マネジメントなどの団体運営のノウハウの習得を目的にした研修会です。詳細は、次のとおりです。

#### ① センター単独開催セミナー

開催日	内 容		参加数	開催場所
4月27日(土)	テーマ	「効果的なプレゼンテーション」 ～助成金獲得の成功に向けて～	19名	センター会議室
	講師	伊藤清和（元富士ゼロックス東京（株）CSR部）		
6月1日(土)	テーマ	「人の集まるチラシの作り方」 ～セミナー・講座・イベントの集客ケア	33名	
	講師	野竿達彦（Yプロデュース代表）		
6月29日(土)	テーマ	「団体の組織強化」 ～理解、共感、信頼を得て、活動を持続	16名	
	講師	粉川一郎（武蔵大学社会学部メディア社会学科教授）		
7月27日(土)	テーマ	「団体の情報発信（基礎編）」 ～ツールの種類と活用法～	15名	
	講師	吉野 真佐代氏（日本財団CANPAN）		
9月7日(土)	テーマ	「団体の会計（基礎編）」 ～会計担当の年間実務～	27名	
	講師	原 淳子氏（原淳子税理士事務所）		

## ② 川崎市社会福祉協議会との共催セミナー

開催日	内 容		参加数	開催場所
10月5日(土)	テーマ	「全員納得の会議の進め方」 ～団体内の信頼関係構築に向けて～	12名	エ ポ ッ ク 中 原
	講師	長田長英氏(まちだNPO法人連絡会会長)		
10月26日(土)	テーマ	「団体の会計(応用編)」	10名	
	講師	原 淳子氏(原淳子税理士事務所)		
11月16日(土)	テーマ	「活動を伝えるコツ！」	7名	
	講師	手塚明美氏(NPO法人藤沢市市民活動推進連絡会事務局長)		
1月18日(土)	テーマ	「仲間づくりのコツ」	13名	
	講師	竹迫 和代氏(参画はぐくみ工房代表)		
2月23日(土)	テーマ	「報告書作成のコツ」	7名	
	講師	手塚明美氏(NPO法人藤沢市市民活動推進連絡会事務局長)		

### (エ) 災害ボランティア養成講座の開催

「被災地に駆け付ける前の心構え」の基調講演のあと、災害ボランティアから被災地での活動と受入れ状況等の報告を内容とする講座を3月15日開催し、13名の参加者がありました。受講後「いまからでもできる被災地支援は？」をテーマにワークショップを実施しました。

### (オ) 市民記者養成講座の開催

現役の記者の方や広告・広報の専門知識を持つ方を講師として、記事の取材や編集方法等についての基礎講座を4回、体験取材・編集会議見学等を全6回、10月16日～11月13日に開催し、17名の参加がありました。

### (カ) 市民活動相談業務

窓口や電話による市民活動相談のほか、活動経験者のある相談員による窓口を設けています。平成25年度は、窓口相談99件、電話相談24件、その他5件で、延べ128件の相談があり、うち104件を職員が、24件を相談員が対応しました。

### (キ) NPO法人の手続き等に関する相談の実施

東京税理士会と連携しNPO法人等の会計相談を実施しました。

平成25年度は、試行的に、相談しやすい状況を醸し出すための「会計セミナー」を開催、そのあと相談会を設けることといたしました。その結果、会計セミナーには、3日間で延べ69人の参加があり、8団体9件の相談がありました。

また、例年、川崎市との共催により、市職員によるNPO法人の設立などに関する相談を毎月第3水曜にセンター窓口で実施していますが、平成25年度の相談件数は5件でした。

### (ク) 職員及び役員の派遣状況

各団体等の要請に基づき、当財団の職員及び役員を講師として、次のとおり派遣いたしました。

#### ①職員派遣

開催日	主催者	テーマ・講座名	対象者	開催場所
2月13日(木)	KSソーシャルアカデミー	支援相談会	修了生	専修大学 サテライト

#### ② 役員派遣

開催日	主催者	テーマ・講座名	対象者	開催場所
5月23日(木)	高津区まちづくり協議会	・「市民活動について」	一般市民	高津区役所
5月24日(金)	麻生区役所	・識字ボランティア入門講座 「外国人に関わるボランティ	一般市民	麻生市民館
6月1日(土)	公園緑地協会	・里山ボランティア養成講座	一般市民	公園緑地協会
7月30日(火)	中原区役所	・川崎市食生活改善推進員 連絡協議会リーダー研	一般市民	中原区・保健 福祉センター
9月6日(金)	宮前区役所	・宮前区運動普及推進員・ 食生活改善推進員養成	一般市民	宮前区・保健 福祉センター
9月7日(土)	中原区役所	・中原区運動普及推進員・食 生活改善推進員養成合同フ ォロー講座 「ボランティアを続けるため のコツと心構え」	一般市民	中原区・保健 福祉センター
9月26日(木)	中原区役所	・シニアのための生涯学習 講座	一般市民	中原市民館
10月29日(火)	健康福祉局	・いきいきリーダーフォロ ーアップ講座「市民活動	一般市民	エポック中原
2月5日(水)	高津区役所	・高津区食生活改善推進 員・運動普及推進員合同	一般市民	高津区役所
2月9日(日)	NPO法人あさお市民 活動サポートセンター	・目指そう！アクティブシ ニア達のセミナー	一般市民	麻生市民交流 館
3月9日(日)	中原区役所	・生涯学習交流集会 「地域課題解決の一步に	一般市民	中原市民館
3月15日(土)	市民・こども局	・市民活動支援フォーラム 「川崎市における市民活 動の支援～これまでと これから」	一般市民	エポック中原

#### (ケ) インターンシップ(就業体験)の受入れ

茨城大学大学院から研修生1名を8月26日(月)から9月8日(日)までの10日間受け入れました。

## カ 連絡調整事業

### (ア) 川崎市社会福祉協議会との連絡調整

ボランティア・市民活動についての調整会議を 2 回、人材育成講座の共同開催に関する会議を 3 回開催しました。

### (イ) 川崎災害ボランティアネットワークの運営

ネットワークの事務局として、定例会が円滑に開催できるよう、所属団体間の調整等所要の準備を進めました。また、市からの要請に基づき、平成 25 年度川崎市総合防災訓練（中原区）にネットワークから 11 名の方に参加いただきました。

### (ウ) 大学連携事業

専修大学ネットワーク情報学部との連携し、市民活動団体への広報支援事業を毎年度実施しています。平成 25 年度は 12 団体の参加協力を得て、映像作品や団体パンフレットの作成支援を行い、3 団体の P R 映像作品が第 5 回かながわ映像祭において入賞しました。

### (エ) 市・区の市民活動支援担当者との定期的情報交換会等の開催

市民・こども局との定例会、区役所や区社協との情報交換会等を必要に応じて開催しました。また、各区役所及び市民・こども局と市民活動拠点関係者会議を共同開催し、市・区の各拠点での支援状況などの情報交換を行いました。

## キ かわさき市民公益活動助成金制度運営事業

### (ア) 市民公益助成金運営事業に係る募集、審査等の実施状況

募集期間	平成 25 年 2 月 7 日～3 月 7 日
審査方法	書類審査及び公開プレゼンテーション
審査委員会	平成 24 年度公開事業報告会（4 月 14 日） 第一次選考・書類審査（4 月 24、30 日） 第二次選考・公開プレゼンテーション（5 月 18、19 日）
審査結果	スタートアップ助成 ・申請 17 団体 交付 13 団体 ステップアップ助成（30・100・200） ・申請 46 団体 交付 38 団体
交付総額	18,422,885 円

### (イ) 制度検討プロジェクトの開催状況

検討テーマ	開催日
第 1 回 助成金制度の検証について	平成 25 年 11 月 11 日
第 2 回 新しいメニューの創設について	平成 26 年 1 月 23 日
第 3 回 複数年度申請について	平成 26 年 3 月 28 日

## ク 川崎災害ボランティア活動助成事業

川崎市域以外の被災地でボランティア活動について、1 団体 4 件の申請があり、60,037 円を交付助成しました。

## ケ 川崎市市民活動補償制度運営事業

市民が安心してボランティア活動に取り組める環境づくりの一環として、引き続き、川崎市市民活動補償制度運営事業（ボランティア保険事業）を川崎市から受託・運営しました。年度中 32 件の申請があり、3 月末日現在、支払済件数 18 件、支払済金額 866,400 円となっています。

なお、平成 25 年度から、町内会等から要請がある場合は、当センター職員を派遣し、ボランティア保険についての説明等を行い、制度の周知・広報に努めることにいたしました。

平成 25 年度の職員の派遣状況は次のとおりです。

派遣日	派遣要請主体	説明対象者	派遣場所
5月27日(月)	中原区町内連絡会	町内会役員	中原区役所
5月29日(水)	幸区日吉地区町連定例会	町内会役員	日吉出張所
6月3日(月)	幸区南河原地区町連定例会	町内会役員	幸区役所
6月24日(月)	幸区御幸地区町連連絡会	町内会役員	幸区役所
6月27日(水)	公園愛護会・公園管理運営協議会連絡会	一般市民	中原区役所
7月2日(火)	公園愛護会・公園管理運営協議会連絡会	一般市民	川崎区役所
8月6日(月)	公園愛護会・公園管理運営協議会連絡会	一般市民	幸区役所
8月23日(金)	公園愛護会・公園管理運営協議会連絡会	一般市民	高津区役所

## コ 賛助会員の確保

賛助会員につきましては、総額 479,000 円のご賛同・ご支援をいただきました。

内訳は、次のとおりです。

種別	会費(一口)	賛助総額
個人会員	1,000円	244,000円(130人244口)
団体会員	5,000円	235,000円(39団体47口)

## サ 募金・寄付等の取組

### (ア) ボランティア・市民活動募金

市民活動推進事業への寄付等を募るために、募金箱を当センター窓口やご協力を得た市内事業者の各店舗へ設置しております。募金箱その他を合わせて、平成 25 年度は 242,573 円のご寄付をいただきました。また、神奈川県生命保険協会(幹事会社日本生命保険相互会社川崎支社)から、基本財産繰入指定寄付として、200,000 円のご寄付をいただきました。

### (イ) 東日本大震災義援金募金

引き続き、被災地域の復旧復興、被災者への支援を行うため、当センターに募金箱を設置し、義援金を募りました。市内こども文化センターからも寄付が寄せられ、合計 28,069 円のご寄付をいただきました。なお、義援金につきましては、神奈川新聞厚生事業団をとおして、被災地域の支援に供しております。

## シ 中原区子育て支援者養成事業(新規受託事業)

平成 25 年度から、中原区役所が地域課題対応事業の一つとして実施している「子育て支援者養成事業」を新たに受託しました。本事業を地域子育て力向上事業の一つと位置づけ、子育てをとおしたネットワークやコミュニティづくりのリーダー役を担える人材の育成を目標に取り組みました。詳細は、次のとおりです。

**(ア) 一般向け+ステップアップ講座**

開催日	内 容		参加数	開催場所
9月19日(木)	テーマ	・オリエンテーション・自己紹介 ・中原区の子育て施策について	12名	センター会議室
	講師	こども支援室・講座担当		
9月26日(木)	テーマ	・子どもを取り巻く環境と子どもの育つ環境に必要な場について		
	講師	・松田恵示（東京学芸大教授）		
10月3日(木)	テーマ	・子育て支援に関わる大人の役割と必要な支援について		
	講師	・松田恵示（東京学芸大教授）		
10月10日(木)	テーマ	・子どもの心と体の発達と、子どもへの理解と対応について		
	講師	・久富陽子（東京家政大教授）		
10月17日(木)	テーマ	・子育て支援活動紹介（5団体予定） ・話し合い		
	講師	・子育て支援団体		
10月24日(木)	テーマ	・振り返りとまとめ ・自分に出来る支援について		
	講師	・講座担当		

**(イ) フォローアップ講座**

開催日	内 容		参加数	開催場所
11月7日(木)	テーマ	・子育てを取り巻く環境を知り、親への理解と対応を考える	8名	センター会議室
	講師	・久富陽子（東京家政大教授）		
11月8日(木) ～11月27日(木)	子育てサロン、ママカフェ等の区内子育て支援活動場所を見学		9名	中原市民館 新城こども文化センターほか
11月28日(木)	テーマ	・まとめと今後について	8名	センター会議室
	講師	・講座担当		

**ス その他**

当財団の元理事で、川崎・ごみを考える市民連絡会代表として活躍された飯田和子氏を、平成25年度川崎市社会功労賞にご推薦申し上げたところ、永年にわたる環境分野での業績や市民活動の先駆者としての業績等が評価され、受賞の運びとなりましたことをご報告申し上げます。



## (2) 青少年健全育成事業

これまでの経験と知識を活かし、こども文化センター53館・わくわくプラザ101施設を適切に管理・運営しました。主な取り組みは次のとおりです。

### ア こども文化センター運営事業

#### (ア) 快適な居場所づくり

基幹業務として、こども文化センター及びわくわくプラザでは、子どもたちに安全・安心かつ楽しい居場所の提供を行い、児童の健全育成を図りました。

① こども文化センター利用状況の推移は、次のとおりです。

利用者別	23年度(53館)	24年度(53館)	25年度(53館)	
乳幼児	229,467人	246,871人	253,972人	+7,101人
小学生	656,239人	638,780人	660,157人	+21,377人
中学生	194,586人	187,044人	193,574人	+6,530人
高校生	47,371人	41,532人	38,836人	-2,696人
成人	350,049人	366,924人	375,004人	+8,080人
計	1,477,712人	1,502,196人	1,541,709人	+39,513人
団体利用数	9,723人	10,101人	9,755人	-346人

\*25年度の右欄は前年度との差

② わくわくプラザの利用状況の推移は、次のとおりです。

年度	施設数	在校児童数	登録児童数	登録率	延べ利用人数	1日平均利用人数
23年度	101校	62,833人	27,913人	44%	1,400,509(74,647)人	4,695(250)人
24年度	101校	62,857人	28,092人	45%	1,475,559(72,706)人	5,038(249)人
25年度	101校	62,975人	28,952人	46%	1,548,158(70,783)人	5,320(243)人

\*在校児童数及び登録児童数は3月現在の数( )内は特別な支援を必要とする児童数

#### (イ) 乳幼児の子育て支援

平成25年度は、延べ6,525団体(1館平均123団体)の乳幼児サークルが、こども文化センターを利用しました。場の提供による支援に加え、館独自の乳幼児向け行事(親子工作・読み聞かせ・ベビータッチケア等)や、関係諸団体の協力を得て行事(健康講座・子育てセミナー・親子リトミック・食育講座等)、栄養相談や乳幼児身体測定などを実施・開催しました。

また、地域子育て支援会議等に参加し、情報交換を行うとともに、地域の子育てネットワーク作りにも積極的にかかわりました。

#### (ウ) 中学生・高校生の利用促進

中学生・高校生の利用に際しては、主体的な活動の尊重・支援を基本とし、異年齢交流行事ほか、様々な工夫を凝らした行事に取り組み、利用の促進を図りました。

また、居場所作りの一環として整備された音楽室のある南河原、宮崎及び白山こども文化センターにおいては、中学生・高校生の地域音楽活動の拠点としての利用促進を図りました。

音楽室の利用状況は次のとおりです。

施設名	年 度	利用団体数	利 用 者 人 数				
			小学生	中学生	高校生	一 般	合 計
南河原	23 年度	921	32 人	158 人	1,515 人	495 人	2,200 人
	24 年度	826	17 人	47 人	1,031 人	502 人	1,597 人
	25 年度	499	6 人	181 人	370 人	523 人	1,080 人
宮 崎	23 年度	534	6 人	285 人	609 人	464 人	1,364 人
	24 年度	662	2 人	315 人	361 人	628 人	1,306 人
	25 年度	644	0 人	62 人	217 人	666 人	945 人
白 山	23 年度	883	13 人	0 人	1,530 人	407 人	1,950 人
	24 年度	910	25 人	44 人	1,425 人	703 人	2,197 人
	25 年度	945	18 人	55 人	1,475 人	709 人	2,257 人
合 計	23 年度	2,338	51 人	443 人	3,654 人	1,366 人	5,514 人
	24 年度	2,398	44 人	406 人	2,817 人	1,833 人	5,100 人
	25 年度	2,088	24 人	298 人	2,062 人	1,898 人	4,282 人

#### (エ) 地域活動拠点としての利用推進

こども文化センターは地域の児童の健全育成に寄与するという目的施設ですが、児童の利用が少ない時間帯を中心として、地域のボランティアや市民活動団体等の方々にも活動の場としての利用促進にも取り組みました。

平成 25 年度は、延べ 21,797 団体（1 館平均 411 団体）の利用がありました。活動内容は、会議や打合せのほか、卓球、コーラス、ダンスといった趣味の活動の場としても利用されています。

そうした利用者の一部の方には、ボランティアとして、昨年に引き続き、子どもたちの囲碁教室や卓球教室などの講師になっていただいたり、コンサートを開催していただいたり、様々なご協力をいただきました。

#### (オ) 運営協議会の開催

運営協議会は、こども文化センターの運営を、地域と連携して円滑に行うために設置された機関です。運営協議会では、こども文化センターの様々な課題について協議を行い施設利用のルール作りや地域団体との橋渡しを担っていただいているほか、行事等も積極的に主催・参画していただくなど、その役割は多岐にわたっています。

平成 25 年度は、全市で計 294 回（各館平均 6 回）の運営協議会が開催され、延べ 3,095 名の運営委員の方にご出席いただきました。

例年のことながら、平成 25 年度も、「こどもまつり」「さんま祭り」「クリーン作戦」「餅つき大会」等の開催に当たっては、運営協議会の皆様方に様々なご協力をいただきました。

また、区単位に、各館共通の課題等について情報の交換・意見集約等を行うため、各館の運営協議会の代表が参加する「区運営委員会」を必要に応じて開催しました。

#### (カ) 不登校児の居場所づくりの取り組み強化

不登校児が来館した際に備え、引き続き職員のスキルアップ等を図るための研修を行い、適切な対応ができるように努めました。

## (キ) 児童の安全・安心の確保

子どもたちの安全・安心の確保は、当財団の基本理念であり、日頃からスタッフによる見守りの強化、遊具等の点検強化に取り組むとともに、区ごとに事故ゼロ運動を推進し、一層の事故防止の向上に努めました。併せて、各区で「事例検討会」を開催するなど、職員のスキルアップの向上にも取り組みました。

また、不審者等への対応については、必要に応じて職員が適切な処置がとれるよう不審者情報をタイムリーに各こども文化センターに発信し、安全・安心の確保に努めました。

## (ク) 専門相談員の配置

平成 25 年度のわくわくプラザにおける特別な支援を必要とする児童登録数は 835 名でした。当財団では、こうした特別な支援を必要とする児童の対応策の一環として、的確な助言や指導を行うことのできる相談役を設置しています。平成 25 年度は、7 名の元養護学校や小学校校長経験者等の人材を確保し、巡回相談員として配置しました。

## (ケ) わくわくプラザ学習タイムの実施

子どもたちの学習習慣の形成を図るため、自学・自習を落ち着いてできる時間と場所を確保するとともに、専任アドバイザーを配置し、学習タイムを実施しました。

## (コ) 職員研修

人的サービスの基本となる職員の資質向上には、職員研修が欠かせません。昨年度に引き続き、年間実施計画を策定し、各種研修が効率的かつ効果的に実施されるよう努めました。平成 25 年度に実施した主な研修は、次の①から⑥のとおりです。

### ① 資格取得派遣研修

当財団では、正規職員には全員、児童厚生二級指導員等の資格取得を義務付けておりますが、平成 25 年度の実績は、次のとおりです。

- ・児童厚生二級指導員資格については、4 名の職員が資格を取得し、職員（館長を除く。）の 96%が資格取得者となりました。
- ・児童厚生一級指導員資格については、今年度は 6 名（本部主査 4 名及び館長 2 名）が資格を取得し、館長・主査の職にある全員が資格取得者となりました。
- ・児童厚生一級特別指導員資格については、館長職 4 名が資格を取得し、平成 23・24 年度と合わせて 12 名となりました。
- ・また、キャンプ・レクリエーションインストラクター研修に各 3 名、評価調査者セミナーに 7 名、雇用環境整備士研修に 6 名、幼児安全法支援員養成講習会に 2 名、の職員をそれぞれ派遣しましたが、全員が資格を取得しました。

### ② グループ単位研修

グループ単位・研修とは、複数（2～3）の館がグループ単位で取り組む研修ですが、平成 25 年度は「野外活動研修」及び「中高生対応研修」「システム研修」「普通救命講習（AED）」等を実施しました。

### ③ 館単位研修

各館を単位とした研修として、平成 25 年度は「応急手当研修」「遊びの研修」「障がい児対応研修」「災害時対応研修」「食品衛生研修」等を実施しました。

### ④ 市主催研修への派遣

川崎市（青少年育成課・子育て支援課・こども福祉課等）が主催する研修については、35 回の研修会に延べ 1,238 名を受講させました。

⑤ 財団主催研修

平成 25 年度に財団が主催した研修は次のとおりです。

回	内 容	テーマ・講師等	対 象	参加数	会 場
1	エリアマネージャーと担当主査の役割について	ディスカッション	本部役員 管理職 エリアマネージャー	16人	本部会議室
2	接遇研修(外部)	川崎市福祉人材バンク(社会福祉施設等新任職員研修)派遣	職 員	8人	川崎市総合福祉センター
3	新任職員・館長研修	内部講師(本部職員)	館 長 職 員	4人 20人	本部会議室 中原市民館 生涯学習プラザ
4	労務管理研修	社会保険労務士 武田 仁氏	館 主 査 長 等	4人 6人	本部会議室
5	本部体験研修	本部職員 各3日	館 主 長 任	7人 2人	本部
6	普通救命講習	高津消防署救急係長 消防指令 杉田 敏充氏	館 職 長 員	2人 18人	高津消防署
7	主任研修	事例研修等(全4回)	主 任	13人	本部会議室
8	アレルギーに関する研修会	昭和大学医学部小児科学講座 講師 今井 孝成氏	館 職 臨 長 員 職	21人 69人 452人	川崎市総合福祉センター
9	児童厚生二級指導員研修(外部)	児童健全育成推進財団(児童厚生員等基礎講習会)派遣	職 員	4人	国立オリンピック記念青少年総合センター
10	レクリエーションインストラクター研修(外部)	神奈川県レクリエーション協会(かながわレクスクール)派遣(全10日)	職 員	3人	かながわ体育センター及び女性センター
11	評価調査者セミナー及び資格認定研修(外部)	かながわ福祉サービス第三者評価推進機構派遣	館 本 部 職 員	5人 2人	神奈川県社会福祉会館
12	甲種防火管理講習会(外部)	川崎市消防防災指導公社派遣	館 主 長 査	2人 4人	川崎消防署 会館とどろき
13	雇用環境整備士資格講習会(外部)	日本雇用整備機構派遣	本 職 部 員	12人	文京シビックホール
14	幼児安全法支援員養成研修会	川崎市社会福祉協議会(川s騎士福祉人材バンク)派遣	職 員	2人	川崎市総合福祉センター
15	児童厚生一級指導員研修(外部)	児童健全育成推進財団(中堅児童厚生員等研修会)派遣	館 主 長 査	2人 4人	国立オリンピック記念青少年総合センター
16	キャンプインストラクター研修(外部)	神奈川県キャンプ協会派遣	職 員	3人	神奈川県立愛川ふれあいの村
17	メディエーション研修	一般社団法人 メディエーターズ 代表理事 田中 圭子氏	館 職 臨 長 員 職	16人 60人 445人	川崎市総合福祉センター
18	児童厚生一級特別指導員資格研修(外部)	児童健全育成推進財団(児童厚生一級特別セミナー)派遣	館 長	7人	国立オリンピック記念青少年総合センター
19	新任職員・フォローアップ研修	体験発表・ディスカッション	職 員	7人	本部会議室
20	食物アレルギーに関する講習会	昭和大学医学部小児科学講座 講師 今井 孝成氏	運 協 委 員 等	126人	川崎市総合福祉センター

⑥ 区単位研修

各区を単位とした研修は、区の研修委員が研修プログラムを作成し、実施しました。詳細は、次のとおりです。

区	回	内 容	テーマ・講師等	対 象	参加数	会 場
川崎区	1	キャンプ・レクリエーション研修	西加瀬こども文化センター 職員 藤岡 啓太郎 王禅寺こども文化センター 職員 前平 八千代	館 長 員 職 員	44人	川崎市福祉センター
	2	不登校児について研修	こどもサポート旭町 主任 宮内 玲氏	館 長 員 職 員	33人	旭町こども文化センター
	3	リフレッシュ研修	講師 名川絢子氏	館 長 員 職 員	2人 26人 57人	川崎市福祉センター
	4	児童厚生1級戻り研修	浅田こども文化センター 館長 吉田 慶子	職 員	21人	浅田こども文化センター
幸区	1	キャンプ・レクリエーション研修	西加瀬こども文化センター 職員 藤岡 啓太郎 王禅寺こども文化センター 職員 前平 八千代	館 長 員 職 員	4人 4人	川崎市福祉センター
	2	応急手当研修	日本赤十字社神奈川県支部 菅野 絹江氏 大友 伸二氏 吉原 久美子氏	職 員 臨 職	7人 21人	小倉こども文化センター
	3	応急手当研修	日本赤十字社神奈川県支部 菅野 絹江氏 大友 伸二氏 吉原 久美子氏	臨 職	37人	幸こども文化センター
	4	応急手当研修	日本赤十字社神奈川県支部 菅野 絹江氏 大友 伸二氏 吉原 久美子氏	館 長 員 職 員	3人 13人 50人	小倉こども文化センター
	5	応急手当研修	日本赤十字社神奈川県支部 菅野 絹江氏 大友 伸二氏 吉原 久美子氏	館 長 員 職 員	2人 6人 20人	下平間こども文化センター
	6	不登校児・生徒の理解研修	幸こども文化センター 館長 横山 澄男	館 長 員 職 員	3人 13人 23人	幸こども文化センター
	7	情報交換会		臨 職	31人	南加瀬こども文化センター
	8	児童厚生1級戻り研修	川崎・幸区担当 主査 鈴木 武	職 員	18人	小倉こども文化センター
中原区	1	キャンプ研修	西加瀬こども文化センター 職員 藤岡 啓太郎	館 長 員 職 員	5人 26人	西加瀬こども文化センター
	2	館長研修	グループワークI	館 長	10人	小杉こども文化センター
	3	レクリエーション研修	西加瀬こども文化センター 主任 山田 拓	館 長 員 職 員	3人 34人	西加瀬こども文化センター
	4	遊具研修	中原区こども支援室 保育所等支援多担当 担当課長 服部 真理子氏 担当係長 佐藤 美香氏	館 長 員 職 員	4人 21人 58人	中原区役所

区	回	内 容	テーマ・講師等	対 象	参加数	会 場
	5	主任講師体験研修	青少年事業課職員係 主任 岩崎 由布子	館 長 職 員	4人 19人	新丸子子ども文化センター
	6	コミュニケーション研修	石坂 俊子氏 増井 幸子氏	館 長 職 員	5人 24人 58人	玉川子ども文化センター
	7	館長研修	グループワークⅡ	館 長	10人	小杉子ども文化センター
高津区	1	レクリエーション研修	有馬子ども文化センター 職員 長谷川 寛隆	館 長 職 員	1人 16人	宮崎子ども文化センター
	2	事務研修	各館職員	館 長 職 員	2人 15人	末長子ども文化センター
	3	野外研修	千代ヶ丘子ども文化センター 職員 梶 菜里衣	館 長 職 員	3人 34人	宮崎子ども文化センター
	4	不登校児対応研修	総合教育センター塚越相談室 指導主事 鈴木 廣和氏 ゆうゆう広場たかつ 相談員 中島 みどり氏	館 長 職 員	2人 20人	高津子ども文化センター
	5	主任講師体験研修	梶ヶ谷子ども文化センター 主任 高木 静香	館 長 職 員	2人 20人	梶ヶ谷子ども文化センター
宮前区	1	レクリエーション研修	有馬子ども文化センター 職員 長谷川 寛隆	館 長 職 員	1人 29人	宮崎子ども文化センター
	2	野外研修	千代ヶ丘子ども文化センター 職員 梶 菜里衣	館 長 職 員	4人 17人	宮崎子ども文化センター
	3	主任講師体験研修	東百合丘子ども文化センター 主任 山田 拓	館 長 職 員	4人 15人	野川子ども文化センター
多摩区	1	AED研修	多摩消防署救急係長 消防指令 太田 昌司氏	館 長 職 員	2人 2人 28人	多摩消防署
	2	チーフサポーター研修	南宮子ども文化センター 館長 高橋 慶次 高津小学校わくわくプラザ	館 長 職 員	2人 7人 32人	枅形子ども文化センター
	3	子どもの人権について 研修	川崎市東柿生小学校 校長 山田 雅太氏	館 長 職 員	4人 12人 75人	多摩区役所 生田出張所
	4	レクリエーション研修	王禅寺子ども文化センター 職員 前平 八千代 枅形子ども文化センター 職員 本間 亜紀子	館 長 職 員	2人 13人 12人	枅形子ども文化センター
	5	AED研修	多摩消防署救急係長 消防指令 太田 昌司氏	館 長 職 員	1人 3人 26人	多摩消防署
	6	児童厚生1級戻り研修	中原区担当 主査 石井 いづみ	館 長 職 員	2人 20人	枅形子ども文化センター
麻生区	1	事務研修	ワークショップ形式	館 長 職 員	1人 20人	麻生子ども文化センター
	2	不登校児童対応研修	虹ヶ丘子ども文化センター 館長 川嶋 友子	館 長 職 員	1人 14人	麻生子ども文化センター
	3	すぐに実践できる！ 遊び研修	王禅寺子ども文化センター 職員 前平 八千代 千代ヶ丘子ども文化センター 職員 梶 菜里衣	館 長 職 員	1人 15人 11人	麻生子ども文化センター
	4	主任講師体験研修	新丸子子ども文化センター 主任 山内 昭仙	館 長 職 員	4人 16人	麻生子ども文化センター

## (サ) 子ども運営会議等の活動促進

こども文化センターでは、行事等を実施する際には、子どもたちの意見等をできる限り行事に反映させるため「子ども運営会議」を開催し、意見等の集約を行っています。平成 25 年度は、延べ 753 回（各館平均 14 回）開催され、延べ 12,145 名（各館平均 229 名）の参加がありました。「おぼけやしき」や「ミニ運動会」などが子どもたちの運営により、「卓球大会」や「お楽しみ会」などが子どもたちの提案により実施されました。また、わくわくプラザでも「子ども運営会議」が、延べ 1,350 回（各わくわくプラザ平均 13 回）開催され、合計 45,316 名（各わくわくプラザ平均 449 名）の参加がありました。

## (シ) 地域関係機関・関係団体との連携の強化

こども文化センター・わくわくプラザの円滑な事業運営を図るため、「学校、各区役所こども支援室・子育て支援センター・子育て広場、各地域施設利用団体」などの関係機関・団体と連携し各種共働事業を実施しました。また、特別な支援を必要とする児童への対応強化を図るため、「発達相談支援センター・児童相談所・地域療育センター」などの関係機関との交流の推進、連携の強化に努めました。

## (ス) 複数館による合同行事の開催

### ① 全市域合同の取組

子どもの仲間づくりや交流の広がりを促し、生きる力・創造性豊かな心・共感する心を子ども自身が身につけることを目的に、昨年に引き続き、「マンカラ大会・子どもサミット」を全市域合同事業として実施しました。

「マンカラ大会・子どもサミット」は、平成 25 年 12 月 14 日（土）に中原市民館で開催しました。マンカラ大会の予選参加者（各館の計）は 4,676 名、子どもサミット予選参加者（各館の計）は 12,866 名、当日の本選参加者の計は 500 名、合計 18,042 名の子どもたちの参加がありました。なお、マンカラ大会をより盛り上げるため、昨年に引き続き個人対抗勝抜き戦ではなく各館対抗勝抜き戦としました。

また、平成 25 年度は当財団設立 10 周年目にあたることから、様々な記念行事等を企画・実施しました。主な記念行事等は、次のとおりです。

#### ○乙武洋匡氏による「記念講演会」

乙武氏による「記念講演会」は、「いま、子どもたちのためにできること」をテーマに、平成 25 年 7 月 13 日（土）に川崎市総合福祉センター（エポックなかはら）で開催しました。市内在住の成人を対象に公募し、718 名の参加がありました。

#### ○10周年記念フェスタ及び拡大BUNBUNステージの開催

「10周年記念フェスタ」は、平成 26 年 2 月 15 日（土）に高津市民館で開催しました。こども文化センターの音楽室利用者及びこども文化センター・わくわくプラザ利用者の日頃の活動の発表の場として例年実施している「BUNBUNステージ」の拡充開催のほか、非日常体験等ができる様々なブースを提供しました。前日から降り続いた大雪にもかかわらず、ステージには創作ダンスや太鼓演奏等、10 団体が出演し、全体で 731 名の参加がありました。

#### ○わくわくプラザの新イメージキャラクターの制作

新イメージキャラクターは、デザイン及び名称を利用児童に公募しところ、デザインについては 2,087 点、名称については 2,485 点の応募があり、各当選作をもとに作成しました。名称は「わくりん」で、「こぶんた」君のお友達という設定です。作成した「わくりん」の着ぐるみは、前述の 10 周年記念フェスタでお披露目し、「こぶんた」君の着ぐるみとともに、BUNBUN ステージの司会やブースを巡回する等、イベントの雰囲気作りにも貢献しました。

## ② 各区の取組

### a 合同行事

各区のこども文化センターが合同で、区内児童の交流と親睦を図ることを目的として地域性を生かした行事を実施しました。詳細は、次のとおりです。

区	実施年月日	内 容	参加数	会 場
川 崎	平成 25 年 11 月 9 日 (土)	スマイルフェスタ 2013 「Kawasaki ワールド イッテ9」	359 人	富士見中学校
幸	平成 25 年 12 月 26 日 (木)	いのちのおはなしワークショップ	91 人	小倉こども文化センター
	平成 26 年 1 月 25 日 (土)	さいわいキッズシティ 2013	156 人	南河原小学校体育館
中 原	平成 25 年 10 月 12 日 (土)	センター10周年記念事業 遊んじゃ王〜10館制覇!こ文キャ ラ大集合〜	184 人	大戸小学校体育館
高 津	平成 25 年 10 月 14 日 (月)	平成 25 年度高津区合同行事「わ くわく探検隊」	179 人	東高根森林公園
宮 前	平成 25 年 11 月 17 日 (日)	ドッチビーみやオリンピック☆スペ シャルミート☆	286 人	向丘小学校体育館
多 摩	平成 25 年 11 月 3 日 (日)	センター10周年記念事業 「多摩冒険の仲間〜僕らの森を取り もどせ!〜」	150 人	稲田公園
麻 生	平成 25 年 9 月 28 日 (土)	センター10周年記念事業 「麻生キッズ☆フェスティバル 2013 忍者& #9768〜FINL〜」	286 人	王禅寺ふるさと公園

### b 関係諸機関が主催する行事への参加

区役所及び市民館等関係諸機関が主催する行事にも積極的に参加し、こども文化センターのPRを行いました。参加した各区行事の詳細は、次のとおりです。

区	実施年月日	内 容	会 場
川 崎	平成 25 年 9 月 28 日 (土)	川 崎 区 子 育 て フ ェ ス タ	教 育 文 化 会 館
幸	平成 26 年 2 月 15 日 (土)	子 育 て フ ェ ア さ い わ い	幸 市 民 館
中 原	平成 25 年 11 月 23 日 (祝)	な か は ら 子 ど も 未 来 フ ェ ス タ	中 原 区 役 所
高 津	平成 25 年 8 月 25 日 (日)	こ だ も フ ェ ア (ド 口 舟 競 技 会)	新 二 子 橋 下 周 辺
	平成 25 年 11 月 16 日 (土)	高 津 区 こ ど も ・ 子 育 て フ ェ ス タ	高 津 市 民 館
宮 前	平成 25 年 10 月 26 日 (土)	み や ま え 子 育 て フ ェ ス タ	宮 前 市 民 館
多 摩	平成 25 年 9 月 15 日 (日)	た ま た ま 子 育 て ま つ り	多 摩 区 庁 舎
麻 生	平成 25 年 11 月 3 日 (土)	長 沢 中 学 校 区 地 域 教 育 会 議	長 沢 中 学 校



### c 人形劇

子どもたちが、地域の伝統行事等に触れることによって、情操が豊かになるよう人形劇やマジックショーを実施しました。詳細は、次のとおりです。

区	実施年月日	劇団	参加数	開催場所
川崎	平成25年7月30日	劇団ひまわり	173人	川崎市福祉センター
幸	平成25年7月29日	劇団風の子	138人	幸市民館 大会議室
中原	平成25年8月22日	アートイン	200人	川崎市国際交流センター
高津	平成25年8月1日	株式会社マジック	465人	川崎市総合福祉センター
宮前	平成25年8月20日	劇団D.I.L	150人	土橋小学校
多摩	平成25年8月21日	アートイン	106人	多目的ホール
麻生	平成26年1月18日	ロバの音楽座	245人	東菅小学校特別活動室

### d 実践集の発行

各子ども文化センター及び各わくわくプラザ一年間の活動記録を実践集として発行しました。今後、各館の取組みの参考資料として、また関係者へのPR資料として、役立てて参ります。

#### (セ) 体験学習の拡充

子どもたちの豊かな人間形成を図るため、市民活動団体等のご協力を得て、様々な体験学習を企画・実施しました。

実施した主なものは、科学実験教室・読み聞かせ・伝承遊び・音楽コンサート・食育講座などです。

#### (ソ) 地域ボランティア等との協働推進

子どもたちの情操を高め、創造性豊かな心、共感する心を育てることを目的に、地域で様々な技能、技術、知識等を持つ方々をボランティア講師としてお招きし、通常の活動の中では経験・体験できない技・芸やお話などを披露・提供していただきました。

#### (タ) 施設修繕・環境整備の推進

施設の基本的安全管理業務として、転落防止柵の設置・破損個所の修復・遊具等の整理・飛散防止フィルムの設置等に取り組みました。

また、冷水機清掃、排水管の高圧清掃、畳の補修等を行い衛生面に配慮するとともに、エアコンの交換と清掃、遮光・防災カーテンの設置を実施し、快適で利用しやすい施設作りに努めました。その他に、かわさき緑のカーテン大作戦を推進するために、窓付近などの外壁にアンカーを設置しました。

#### (チ) 財政基盤の安定確保と円滑な事業運営

指定管理業務の円滑な運営のため、特別費用準備資金等取扱規則に基づき、特別費用準備資金を計画的に保有し、財政基盤の安定確保を図りました。

## イ 子育て支援・わくわくプラザ事業

川崎市からの委託業務として、保護者の就労等により午後6時までに児童の迎えが難しい保護者のため、子育て支援の視点から午後7時までの児童の居場所と安全を確保する「子育て支援・わくわくプラザ事業」を、全わくわくプラザにおいて実施しました。平成25年度は2,029名が登録し、延べ113,120名の児童の利用がありました。

児童の登録及び利用状況の推移は、次のとおりです。

年 度	登録児童数	延べ利用人数	1ヶ月平均利用人数
23年度	1,844 (66) 人	106,662 (5,182) 人	8,889 (432) 人
24年度	1,949 (63) 人	114,840 (5,197) 人	9,570 (433) 人
25年度	2,029 (60) 人	113,120 (4,687) 人	9,426 (390) 人

\*登録児童数は3月現在の数 \* ( ) 内は特別な支援を必要とする児童数

## ウ 地域子育て支援センター（児童館型）事業

地域子育て支援センター事業（児童館型）を平成20年10月に4カ所、平成21年7月から12カ所、平成22年7月から平成23年度までは20カ所、平成24年度からは10カ所で受託し、週3日（9：30～12：30）「ふあみいゆ」の名称で開設・運営しました。

乳幼児親子の交流の場として、子育てに関する相談・援助の場所として、地域の子育て情報の提供の場として、多くの利用があり定着してきました。また、利用者の意見も取り入れた行事（お楽しみ会・工作・誕生会・食育講座・歯科衛生指導・身体測定等）にも、多くの親子の参加がありました。平成25年度の利用状況は、のとおりです。

区	地域子育て支援センター	平成24年度			平成25年度		
		児 童	大 人	合計人数	児 童	大 人	合計人数
川 崎	ふあみいゆ 殿 町	2,564 人	2,432 人	4,996 人	2,237 人	2,011 人	4,248 人
	ふあみいゆ 田 島	1,070 人	1,000 人	2,070 人	1,251 人	1,176 人	2,427 人
	ふあみいゆ 浅 田	1,784 人	1,463 人	3,247 人	2,215 人	1,921 人	4,136 人
幸	ふあみいゆ 南河原	3,820 人	3,401 人	7,221 人	2,569 人	2,383 人	4,952 人
	ふあみいゆ 幸	2,380 人	2,203 人	4,583 人	2,748 人	2,572 人	5,320 人
	ふあみいゆ 小 倉	2,348 人	2,011 人	4,359 人	2,083 人	1,871 人	3,954 人
中 原	ふあみいゆ 新丸子	2,773 人	2,624 人	5,397 人	3,165 人	2,884 人	6,049 人
	ふあみいゆ 平 間	2,055 人	1,722 人	3,777 人	2,155 人	1,855 人	4,010 人
麻 生	ふあみいゆ 千代ヶ丘	2,584 人	2,427 人	5,011 人	2,654 人	2,359 人	5,013 人
	ふあみいゆ 柿 生	1,430 人	1,338 人	2,768 人	1,365 人	1,141 人	2,506 人
合 計		22,808 人	20,621 人	43,429 人	22,442 人	20,173 人	42,615 人

## エ その他（教育実習等）

平成 25 年度は、実習生、高校生ボランティア、教員研修の他に、総合的な学習の一環としての中学生ボランティア、夏期のチャレンジボランティアなど幅広い年齢の実習生やボランティア等の受け入れに努めました。

### (ア) 児童館教育実習生の受け入れ

平成 25 年度は、実習生 20 名を 20 館のこども文化センターで受け入れました。内訳は、次のとおりです。

依頼学校名	人数	実習場所	実習期間
有明教育芸術短期大学	2人	西加瀬こども文化センター	12日
		上作延こども文化センター	
草苑保育専門学校	2人	小杉こども文化センター	11日
		住吉こども文化センター	
東京福祉大学	1人	南河原こども文化センター	12日
昭和女子大学	3人	二子こども文化センター	12日
		梶ヶ谷こども文化センター	
		宮前平こども文化センター	
小田原女子短期大学	4人	菅こども文化センター	10日
		長尾こども文化センター	
		百合丘こども文化センター	
		虹ヶ丘こども文化センター	
町田福祉保育専門学校	4人	有馬こども文化センター	10日
		三田こども文化センター	
		中野島こども文化センター	
		千代ヶ丘こども文化センター	
横浜リゾート&スポーツ専門学校	1人	小倉こども文化センター	10日
日本体育大学	1人	新丸子こども文化センター	10日
東京YMCA社会体育・保険専門学校	1人	宮崎こども文化センター	12日
目白大学	1人	藤崎こども文化センター	12日

### (イ) 職業体験の受け入れ

平成 25 年度は、高校生 8 名を 5 館のこども文化センターで受け入れました。小中学生については延べ 2,916 名の生徒を 45 館のこども文化センターで受け入れました。内訳は次のとおりです。

#### ①高等学校生の受け入れ

依頼学校名	人数	実習場所	実習期間
桐朋高等学校	1人	中野島こども文化センター	1日
県立菅高等学校	3人	菅こども文化センター	2日
県立菅高等学校	2人	南菅こども文化センター	2日
県立大師高等学校	1人	大師こども文化センター	7日
大東学園高等学校	1人	未長こども文化センター	3日

②小中学校生の受け入れ

区	依 頼 学 校 名	人 数	実習場所	実習期間
川 崎	川 崎 小 学 校	8人	日進町	1日
	田 島 小 学 校	7人	渡田	1日
	藤 崎 小 学 校	7人	藤崎	1日
	川 中 島 小 学 校	5人	藤崎	1日
	殿 町 小 学 校	18人	殿町	1日
	臨 港 中 学 校	1人	田島	1日
	小 田 小 学 校	13人	小田	1日
	東 大 島 小 学 校	7人	藤崎	1日
	渡 田 小 学 校	15人	田島	1日
	京 町 中 学 校	2人	浅田	1日
	向 小 学 校	3人	渡田	1日
	東 小 田 小 学 校	12人	小田	1日
幸	古 川 小 学 校	48人	幸	1日
	戸 手 小 学 校	139人	幸	1日
	夢 見 ケ 崎 小 学 校	89人	南加瀬	1日
	南 加 瀬 中 学 校	2人	南加瀬	1日
	小 倉 小 学 校	27人	小倉	1日
	日 吉 小 学 校	16人	北加瀬	1日
	塚 越 中 学 校	4人	北加瀬	1日
中 原	西 中 原 中 学 校	5人	小杉	1日
	今 井 中 学 校	5人	小杉	1日
	中 原 中 学 校	17人	新丸子	1日
	西 丸 子 小 学 校	11人	新丸子	1日
	住 吉 小 学 校	26人	住吉	1日
	下 小 田 中 小 学 校	17人	井田	1日
	井 田 小 学 校	36人	井田	1日
	下 河 原 小 学 校	6人	平間	1日
	木 月 小 学 校	15人	西加瀬	1日
	苅 宿 小 学 校	4人	西加瀬	1日
	西 中 原 中 学 校	8人	新城	1日
	新 城 小 学 校	24人	新城	1日
	宮 内 中 学 校	9人	宮内	1日
宮 内 小 学 校	147	宮内	1日	

区	依頼学校名	人数	実習場所	実習期間
高津	上作延小学校	59人	上作延	1日
	東橋中学校	4人	高津	1日
	宮内中学校	3人	東高津	1日
	東高津小学校	160人	東高津	1日
	末長小学校	15人	末長	1日
	東橋中学校	12人	子母口	1日
	子母口小学校	36人	子母口	1日
	宮崎中学校	2人	梶ヶ谷	1日
	梶ヶ谷小学校	17人	梶ヶ谷	1日
	坂戸小学校	17人	二子	1日
	久本小学校	25人	二子	1日
宮前	西有馬小学校	25人	有馬	1日
	宮崎小学校	43人	有馬	1日
	有馬中学校	10人	有馬	1日
	野川小学校	26人	野川	1日
	南野川小学校	99人	野川	1日
	西野川小学校	8人	野川	1日
	宮崎台小学校	13人	宮前平	1日
	向丘小学校	16人	平	1日
	白幡台小学校	40人	白幡台	1日
多摩	東生田小学校	10人	枳形	1日
	宿河原小学校	99人	枳形	1日
	生田中学校	14人	枳形	1日
	稲田小学校	211人	長尾	1日
	宿河原小学校	136人	長尾	1日
	稲田中学校	10人	長尾	1日
	南生田小学校	204人	錦ヶ丘	1日
	生田小学校	19人	錦ヶ丘	1日
	三田中学校	4人	三田	1日
	カリタス女子中学校	2人	中野島	1日
	中野島小学校	164人	中野島	1日
	枳形中学校	7人	中野島	1日
	菅小学校	35人	菅	1日
	東菅小学校	84人	菅	1日
南菅小学校	4人	南菅	1日	

区	依頼学校名	人数	実習場所	実習期間
麻生	百合丘小学校	9人	百合丘	1日
	西生田中学校	1人	百合丘	1日
	長沢小学校	40人	東百合丘	1日
	千代ヶ丘小学校	192人	千代ヶ丘	1日
	王禅寺中央小学校	86人	王禅寺	1日
	虹ヶ丘小学校	23人	虹ヶ丘	1日
	柿生小学校	103人	柿生	1日
	東柿生小学校	68人	柿生	1日
	麻生小学校	8人	柿生	1日

**(ウ) 高校生ボランティアの受け入れ**

平成25年度の受け入れの内訳は、次のとおりです。

依頼学校名	人数	実習場所	実習期間
カリタス女子中学校	2人	南菅こども文化センター	1日

**(エ) 教員研修「体験活動」の受け入れ**

平成25年度の受け入れの内訳は、次のとおりです。

依頼学校名	人数	実習場所	実習期間
神奈川県立市ヶ尾高等学校	1人	南菅こども文化センター	3日

**(オ) チャレンジボランティア（夏期）の受け入れ**

平成25年度の受け入れの内訳は、次のとおりです。

主催者	人数	受入場所	受入期間
川崎市社会福祉協議会	24人	幸こども文化センター	4日

**(カ) 事故報告**

過去3年間のわくわくプラザにおける事故の件数は、次のとおりです。

月	23年度	24年度	25年度
4月	43 (13) 人	16 (4) 人	21 (3) 人
5月	14 (4) 人	29 (6) 人	15 (4) 人
6月	21 (7) 人	28 (9) 人	14 (9) 人
7月	17 (7) 人	20 (6) 人	19 (7) 人
8月	17 (5) 人	15 (3) 人	13 (4) 人
9月	21 (6) 人	11 (2) 人	10 (1) 人
10月	20 (9) 人	16 (6) 人	11 (6) 人
11月	19 (7) 人	19 (6) 人	12 (0) 人
12月	16 (4) 人	14 (1) 人	8 (1) 人
1月	7 (1) 人	12 (2) 人	8 (0) 人
2月	2 (0) 人	7 (3) 人	3 (1) 人
3月	20 (4) 人	7 (2) 人	14 (8) 人
計	217 (67) 人	194 (50) 人	148 (44) 人

( ) は、4日以上通院の事故件数

### (3) 法人の運営

公益財団法人としてその役割・機能を発揮できるよう、諸課題の解決に向けて法人の組織体制の強化を図るとともに、現場と本部とが一体となって様々な観点から改革に取り組みました。

#### ア 業務・組織の改革

法人全体の業務改善に取り組むとともに、事業計画の進捗管理を着実にを行い、コスト削減や効果的な事業の実施等を通じて、経営基盤の強化による総合力の向上を図りました。

また、法人全体で職員意識の改革を図り一体感を持たせるように取り組むとともに、職員のスキルアップはもとより、資質の優れた人材の確保に努めました。

こども文化センターなどの指定管理業務の区役所移管に継続して対応するため、エリア単位のマネージャー等を2名ずつ配置して、館長職と所管エリアマネージャーとの連携を強化するなど体制整備を図りました。

#### イ 財務改善

経理・会計処理では、公益法人会計基準に準拠した会計処理を確実にを行うために、6月から新会計ソフトへの移行を検討し、継続性を重視して最も利用されているP C A公益法人会計ソフトの導入を決定して、9月1日から本格稼働させました。また、財政基盤の安定確保と円滑な事業運営を図るために、特別費用準備資金の積立を継続して行いました。

事業報告書等の提出については、平成24年度に係る関係書類等を作成し、5月10日の監事監査を経て、第1回理事会及び第2回評議員会（定時評議員会）で承認を受けましたので、6月27日に電子申請により行政庁への届出を行いました。なお、関係書類等を事務所に備え置くとともに、貸借対照表を事務所の公衆の見やすい場所に掲示しました。

また、平成26年度の事業計画書等については、3月11日の第3回理事会で承認を受けましたので、3月24日に電子申請により行政庁に届出を行いました。

#### ウ その他

公益認定後の初めての立入検査が、平成26年1月30日に実施されました。当法人の認定登記が平成22年7月1日ですので、認定後3年半余り経過してからの立入検査となりますが、指摘事項は特にありませんでした。なお、第2回以降は、直近の立入検査実施後3年以内に実施される予定であります。